



南のかぜだより

*** 第20号 ***
2025年 春号
発行 特定非営利活動法人
ソーシャルネット南のかぜ

ソーシャルネット南のかぜは12年目に入ります

スタートから11年、成年後見制度を市民の目線から地域に伝えることを使命に、講演会や法人後見での受任を実践してきました。成年後見制度や法人後見という言葉を目にするのが少ない中で、地域で「見える化」する大きな役割を担ってきました。今では金融機関だけでなく市役所も、後見人受任が個人だけではなく、法人後見受任の取り扱いも確立されています。また、地域の中で成年後見人を担う人の支援や法人後見の仕組みづくりが求められていますが、「特定非営利活動法人ソーシャルネット南のかぜ」は先行して取り組んできました。

この地域の成年後見制度利用促進を図る機関は、一般社団法人多摩南部成年後見センターだけでなく、地域の社会福祉協議会や行政が中核機関として取り組んでいます。

当法人は中核機関の委託は受けておりませんが、約50件の受任実績と様々な相談経験を生かして、家族や親族が成年後見人を担えるように支援が必要と考え「親族後見人支援事業～笑顔のネットワークづくり～」に取り組んでおります。取り組みから3年目になります。地域共生社会の実現をめざした成年後見制度推進のひとつは、家族や親族が成年後見人になってその経験を「もう一人の誰かのために」実践してもらおう、そんな仕組みではないかと思えます。一人でも多くの方に共感してもらえよう取り組みを進めていきます。 (大輪典子)

親族後見人支援事業

～笑顔のネットワークづくり～

カフェ
タイム

終活・将来の
不安なんでも
NK

4月からの
申込はこちら

親族後見人支援事業 この一年

ソーシャルネット南のかぜは地域の集まりにお邪魔して、後見制度を含めた権利擁護を身近に感じていただくために「笑顔のネットワークづくり」とネーミングした何でも話せるカフェタイムを開催しています。障害者の家族会では後見制度の利用に向けて具体的な事例を挙げて説明を行います。地域の高齢者の昼食会にお邪魔した時は、南のかぜの「わ

たしの物語をつむぐノート」の使い方を説明し後見制度のお話をする、市民後見人を経験された参加者の中から大変声も挙げられました。また終活に向けた講座の開催も考えている葬儀会社から社員研修として講義を依頼されたことがあります。依頼元の属性は異なりますが、第2期成年後見制度利用促進基本計画における住み慣れた地域で障害があっても、高齢になっても、自分らしく暮らし続けることができるための権利擁護の視点が市民の間に広がっていくようこれからも活動を続けたいと思えます。(鈴木禎子)